資料２

参考資料

１．　丹波市総合計画審議会条例

２．　丹波市総合計画審議会委員名簿

３．　諮問書

４．　答申書

５．　会議経過

６．　用語解説

７．　丹波市市民憲章

1. 丹波市総合計画審議会条例

〇丹波市総合計画審議会条例

平成16年11月１日
条例第24号
改正　平成21年３月13日条例第３号
平成24年３月８日条例第１号
平成24年９月20日条例第34号
平成26年３月10日条例第４号
令和３年３月９日条例第19号

（設置）

第１条　地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の４第３項の規定により、丹波市総合計画審議会（以下「審議会」という。）を置く。

（所掌事務）

第２条　審議会は、丹波市総合計画及び新市建設計画に関する事項について、必要な調査と審議を行い、市長の諮問に答申することを職務とする。

（組織）

第３条　審議会は、委員32人以内で組織する。

２　委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

（１）　市教育委員会の代表　１人

（２）　市農業委員会の代表　１人

（３）　市内の経済団体の代表　５人以内

（４）　公共的団体の代表　10人以内

（５）　識見を有する者　５人以内

（６）　公募による市民　10人以内

３　委員の任期は、２年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会長及び副会長）

第４条　審議会に会長及び副会長各１人を置く。

２　会長及び副会長は、委員の互選による。

３　会長は、会務を総括し、審議会を代表する。

４　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第５条　審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集する。

２　会議は、過半数の委員が出席して成立し、その議事は、出席委員の過半数で決する。ただし、可否同数となったときは、会長の決するところによる。

（部会）

第６条　審議会は、必要に応じて部会を置くことができる。

２　部会に属する委員は、会長が指名する。
３　部会に部会長を置く。
４　部会長は、部会に属する委員の互選によって定める。
５　部会長の職務及び部会の会議については、第４条第３項及び前条の規定を準用する。
（庶務）
第７条　審議会の庶務は、ふるさと創造部において処理する。
（その他）
第８条　この条例に定めるもののほか、審議会の運営について必要な事項は、会長が定める。
附　則
この条例は、平成16年11月１日から施行する。
附　則（平成21年３月13日条例第３号）
この条例は、公布の日から施行する。
附　則（平成24年３月８日条例第１号）
この条例は、公布の日から施行する。
附　則（平成24年９月20日条例第34号）
この条例は、公布の日から施行する。
附　則（平成26年３月10日条例第４号）
（施行期日）
１　この条例は、公布の日から施行する。
（丹波市地域審議会の設置に関する条例の廃止）
２　丹波市地域審議会の設置に関する条例（平成16年丹波市条例第23号）は、廃止する。
（経過措置）
３　この条例の施行の際現に改正前の丹波市総合計画審議会条例の規定により委嘱されている委員の任期は、改正後の丹波市総合計画審議会条例第３条第３項の規定にかかわらず、平成27年３月31日までとする。
附　則（令和３年３月９日条例第19号）抄
（施行期日）
１　この条例は、令和３年４月１日から施行する。

2. 丹波市総合計画審議会委員名簿

◎：会長　○：副会長

条例上の区分	氏　名	所属・役職など	任期
市教育委員会の代表	上羽　裕樹	丹波市教育委員会教育委員	R４.10.26 ～R６.９.30
市農業委員会の代表	岸本　好量	丹波市農業委員会会長	R４.10.26 ～R６.９.30
市内の経済団体の代表	竹内　真子	丹波市商工会理事	R４.10.26 ～R６.９.30
	森島　斉	丹波ひかみ農業協同組合専務理事	R４.10.26 ～R６.９.30
	細見　博美	丹波市工業会会長	R４.10.26 ～R６.４.４
	芦田　基	丹波市工業会会長	R６.４.５ ～R６.９.30
	植木　光敏	兵庫県信用組合柏原支店長	R４.10.26 ～R６.９.30
公共的団体の代表	大野　亮祐	丹波市自治会長会会長	R４.10.26 ～R６.９.30
	坂本　康子	柏原自治協議会副会長	R５.６.14 ～R６.９.30
	足立　はるみ	一般社団法人丹波市観光協会事務局長	R４.10.26 ～R６.９.30
	瀬尾　せつ子	丹波市社会福祉協議会副会長	R４.10.26 ～R５.７.９
	金川　方子	丹波市社会福祉協議会副会長	R５.７.10 ～R６.９.30
	寺内　清	丹波市身体障害者福祉協議会副会長	R４.10.26 ～R６.６.６
	河南　光夫	丹波市身体障害者福祉協議会副会長	R６.６.７ ～R６.９.30
識見を有する者	柳瀬　長明	丹波県民局副局長	R４.10.26 ～R６.９.30
	實吉　直	一般社団法人丹波青年会議所副理事長	R４.10.26 ～R６.９.30
	◎　杉岡　秀紀	福知山公立大学准教授	R４.10.26 ～R６.９.30
公募による市民	○　山口　洋子	公募市民	R４.10.26 ～R６.９.30
	池畑　美帆	公募市民	R４.10.26 ～R６.９.30

3. 諮問書

諮問第５号

丹波市総合計画審議会

第３次丹波市総合計画について（諮問）

丹波市は、平成27年度から10年間を計画期間とする第２次丹波市総合計画（以下「第２次総合計画」という。）を策定し、「人と人、人と自然の創造的交流都市～みんなでつなぐ丹（まごころ）の里～」を将来像とし、これを具現化するための基本計画の達成に向けて取り組んできました。

つきましては、第２次総合計画の計画期間が令和６年度をもって終了することから、本市が目指すべきまちの将来像やまちづくりの基本方針を明確にするとともに、総合的かつ計画的な行政運営を図ることを目的として、持続可能なまちづくりの指針となる「第３次丹波市総合計画」を策定するため、丹波市総合計画審議会条例（平成16年丹波市条例第24号）第２条の規定により諮問します。

令和４年10月26日

丹波市長　林　時彦

4. 答申書

答申書

答申の様子

写真

5. 会議経過

	市民参画	行政・議会
【令和4(2022)年度】		
6月		議会報告
9月		議会報告
10月	第1回丹波市総合計画審議会	
11月	市民アンケート（～12月）	
12月		政策会議 議会報告
1月	第2回丹波市総合計画審議会	
2月	団体ヒアリング（～3月） 市民ワークショップ（～3月）	議会報告 第1回若手職員プロジェクトチーム会議
【令和5(2023)年度】		
4月		第2回若手職員プロジェクトチーム会議
5月		政策会議 議会報告 第1回丹波市総合計画策定委員会
6月	第3回丹波市総合計画審議会	政策会議 第2回丹波市総合計画策定委員会 議会報告
7月	第4回丹波市総合計画審議会	政策会議
8月	第5回丹波市総合計画審議会	政策会議 第3回丹波市総合計画策定委員会
9月		議会報告
10月	第6回丹波市総合計画審議会 第7回丹波市総合計画審議会	
11月	第8回丹波市総合計画審議会	政策会議 第4回丹波市総合計画策定委員会 議会報告
12月		第5回丹波市総合計画策定委員会
1月	第9回丹波市総合計画審議会	
2月	第10回丹波市総合計画審議会	第6回丹波市総合計画策定委員会
3月		政策会議 議会報告 第7回丹波市総合計画策定委員会

	市民参画	行政・議会
【令和6（2024）年度】		
４月	第11回丹波市総合計画審議会	
５月	第12回丹波市総合計画審議会 小学生・中学生への絵画募集（～７月）	政策会議 議会報告
６月	第13回丹波市総合計画審議会 パブリックコメント（～７月）	政策会議 議会報告
７月	市民説明会・丹波市すまいるチャレンジ 第14回丹波市総合計画審議会	
８月	第15回丹波市総合計画審議会 答申	政策会議
９月		議会提案

6. 用語解説

あ行

アウトリーチ（P.59）

助けを求めることが難しい人を適切な支援につなげていくため、行政や支援機関が積極的に働きかける取組のこと。

アントレプレナーシップ教育（P.31）

自ら課題を見つけ、解決に取り組んだり、他者と協働して解決策を探るための知識・能力などを身につけたりするための教育のこと。

いきいき百歳体操（P.61）

高齢者が健康でいきいきとした生活を送れるよう、高知市が介護予防を目的として考案した重りを使った筋力運動のこと。高齢者の交流の場づくりとしても効果が認められ、全国的に広まっている。

一次医療機関（P.56）

日常生活での軽度の傷病に対する医療を提供する地域の病院や診療所のこと。

インターンシップ（P.57）

学生が就業前に興味のある企業などで職業体験をすること。

インバウンド（P.9）

外国から日本を訪れる旅行、または、外国人旅行客のこと。

インフラ（P.10）

インフラストラクチャーの略語。産業や生活の基盤として整備される施設のこと。

ウェルビーイング（P.7）

身体的、精神的、社会的に満たされ、持続的に良好な状態であること。

オーガニックビレッジ宣言（P.8）

豊かな里山の暮らしを未来につなぐため、農業生産者だけでなく、広く市民や企業がそれぞれの立場で参画し、大切な地域資源を守っていくまちをめざして、丹波市が表明した宣言のこと。

温室効果ガス（P.10）

太陽から放出される熱を地球に閉じ込め、地表を暖める働きがある、大気中の二酸化炭素やメタンなどのガスのこと。地球温暖化の原因とされている。

か行

カーボンニュートラル（P.10）

地球温暖化の原因とされる二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量と、森林などが吸収する量のバランスをとること。

かかりつけ医（P.56）

健康に関して何でも相談できる、身近にいて頼りになる医師のこと。

核家族化（P.28）

夫婦のみの世帯、または、親とこどもの世帯が増えていくこと。

化石エネルギー（P.10）

石炭や石油、天然ガスの燃焼などによって得られるエネルギーのこと。

観光コンテンツ（P.70）

地域資源を活用して旅行者に提供する滞在・体験のプログラムやツアーのこと。

キャッシュレス決済（P.10）

現金を使用せず、クレジットカードや電子マネー（プリペイドカード）、スマートフォンで支払いをすること。

キャリア教育（P.14）

社会的自立に向けて基盤となる能力や態度を身につけ、社会のなかでの自らの役割や価値を見出すための教育のこと。

グローバル化（P.9）

国や地域を超えて、人やモノ、情報などの交流が活性化し、世界における結びつきが深まり、一体化が進むこと。

ゲートウェイ（P.8）

交通ネットワークの結節点であり、人やモノが移動するときの入口となる拠点のこと。

健康寿命（P.8）

健康上の問題で日常生活が制限されることなく暮らせる期間のこと。

行動変容（P.77）

人の意識が変わり、これまでの行動や習慣が持続的に変化すること。

コーディネーター（P.31）

目的を実現するため、様々な人材や物事を調整する役割を担う人のこと。

国土強靭化（P.10）

災害の被害を最小限に抑え、人の命を守り、経済社会を迅速に復旧・復興できる国土、地域を構築すること。

コミュニティ（P.2）

共通の意識や目的、地域などでつながり、互いに支えあう人の集まりのこと。

コンプライアンス（P.93）

法令を遵守し、社会的規範や倫理観、組織の規則に従い、公正・公平に業務を行うこと。

さ行

再生可能エネルギー（P.14）

太陽光や風力、地熱など、自然界に常に存在し、永久的に活用できるエネルギーのこと。

サプライチェーン（P.9）

商品やサービスを消費者に届けるまで、原材料の調達から製造、配送、販売の一連の流れのこと。

自己肯定感（P.31）

ありのままの自分をかけがえのない存在として、肯定的、好意的に受け入れることができる感覚のこと。

住宅セーフティネット（P.74）

住宅の確保が難しい人が、入居しやすい賃貸住宅の供給を促進する仕組みのこと。

将来負担比率（P.91）

自治体が抱える借入金（地方債）など負債の大きさを、財政規模に対する割合で表したもの。

ステークホルダー（P.23）

企業や団体、行政などの組織が活動するときに関わる利害関係者のこと。

住まいるバンク（P.44）

丹波市の空き家を所有されている人から物件情報を集め、空き家を活用したい人や移住希望者に情報提供し、マッチングする取組のこと。

生成 AI（P.10）

コンピューターが、あらゆるデータから学習し、新しいデータや情報をつくり出す技術のこと。

生物多様性（P.14）

地球上に多種多様な生物が直接的、間接的に関わりあっていること。

ゼロカーボン（P.8）

地球温暖化の原因とされる二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量が、森林などが吸収する量以下になっており、実質的な排出量がゼロになっている状態のこと。

総合治水（P.79）

河川や下水道を整備する「ながす」対策に加えて、校庭、田んぼ、ため池などを活用して、雨水を一時的に貯留・浸透させる「ためる」対策、浸水が発生した場合でも被害を軽減する「そなえる」対策を組み合わせたもの。

ソーシャルインクルージョン（P.63）

様々な要因から社会的弱い立場にある人とのつながりを確保し、誰もが社会参画する機会を持ち、ともに支えあい生きていこうとする理念のこと。

ソフト・ハード面（P.49）

ソフト面とは、人材や技術、サービス、情報など形のない要素のこと。ハード面とは、施設や設備、機器など形のある要素のこと。

た行

耐震化（P.10）

大規模地震でも建物が倒壊・損壊しないように補強すること。

多文化共生（P.18）

国籍や言語、文化、習慣などの異なる人が、互いの違いを認めあい、地域社会の一員としてともに生きていくこと。

丹波市観光アンバサダー（P.71）

丹波市の緑豊かな自然、歴史、伝統文化、特産物などの魅力を広く発信し、地域イメージの高揚及び産業、観光などの地域振興並びに交流の拡大を図るため任命された人のこと。

長寿命化（P.14）

消耗品やインフラなどの耐久性を向上させ、改修や補修などにより施設が長持ちするようにすること。

データヘルス（P.57）

電子データ化された健康医療情報を活用することにより、医療保険者が加入者の健康状態にあった効果的・効率的なサービスを提供する保健事業のこと。

道路損傷通報システム（P.79）

道路や側溝などの損傷を発見したとき、写真や位置情報を送信して通報するシステムのこと。

都市機能（P.12）

居住、商業、工業、農業、観光、文化、教育、交通、行政など、まちや市民の暮らしを構成する主要な機能のこと。

都市構造（P.3）

暮らしやすいまちとしての機能・サービスの配置や土地利用から構成される、まちの構造のこと。

な行

二次医療機関（P.57）

専門性のある外来や一般的な入院医療を行う病院のこと。地域の他の病院や診療所と連携し、地域医療の中核的な役割を担う。

ニュースポーツ（P.41）

年齢や性別、障がいの有無にかかわらず気軽に親しむことができるスポーツ・運動のこと。

認定新規就農者（P.68）

市町村が青年等就農計画を認定した、新たに農業経営を営もうとする人のこと。または、農業経営を開始して一定の期間（５年）を経過しない人のこと。

農業ポータルサイト（P.69）

丹波市の農業の魅力や就業に関する情報などを掲載したサイトのこと。

農福連携（P.59）

障がいのある人の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障がいのある人の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する取組のこと。

は行

バックキャスティング（P.7）

最初に目標を決め、その実現のために逆算して、今行うべきことを考える手法のこと。

ヒアリング（P.5）

意見や意向、要望などを聞き取り調査すること。

避難行動要支援者名簿（P.49）

要配慮者（高齢者、障がいのある人、乳幼児、その他の特に配慮を要する人）のうち、災害発生時の避難などに特に支援を要する人の名簿。

ふるさと寄附金（P.45）

住所地以外の自分のふるさとや応援したい自治体にする寄附金のこと。

ふるさと住民登録制度（P.45）

丹波市と市外在住者の交流やつながりを深める制度のこと。丹波市と関りのある人や丹波市ファンが丹波市ふるさと住民に登録し、市の情報提供や丹波市を応援するための取組に参加できる。

ま行

マイナンバーカード（P.10）

国のマイナンバー（個人番号）制度に基づく、行政手続きなどで個人を識別するための情報を有するカードのこと。公的な本人確認書類として利用できる。

マネジメント（P.81）

物事をうまく運営するために、資源（人・物・金・時間・情報など）を、最善に活用する手法のこと。

木質バイオマス（P.87）

木材からなる再生可能な生物由来の有機性資源（化石燃料は除く）のこと。

や行

ヤングケアラー（P.58）

本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っているこどものこと。

ら行

ライドシェア（P.77）

タクシーの営業許可を持たない一般のドライバーが、自家用車を活用して有償の移動サービスを提供すること。

ライフスタイル（P.9）

個人の人生観・価値観・習慣など踏まえた、生き方や生活様式のこと。

ライフステージ（P.43）

人間の一生において節目となる出来事（出生や入学、卒業、就職、結婚、子育て、退職など）で区分される生活環境の段階のこと。

リモートワーク（P.9）

遠隔で仕事を行うこと。オフィスに行くことなく、別の場所で業務を行う形態のこと。

わ行

ワークショップ（P.5）

様々な立場の人が集まり、自由に意見を出しあい、互いの考えを尊重しながら、意見や提案をまとめていく手法のこと。

ワーク・ライフ・バランス（P.33）

仕事と生活の充実のバランスがとれ、相互に良い効果をもたらす状態のこと。

ワーケーション（P.9）

Ｗｏｒｋ（仕事）とＶａｃａｔｉｏｎ（休暇）を組み合わせた造語。普段の職場とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間を過ごすこと。

ワンオペ（P.28）

日常的に家事や育児を一人でこなさなければならない過酷な状況のこと。

A～Z行

DX（P.66）

デジタルトランスフォーメーションの略語。デジタル技術を活用し、仕事や生活、社会そのものを変革すること。

GIGA スクール構想（P.30）

児童生徒向けの１人１台の端末と通信ネットワークを一体的に整備し、多様なこどもに個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させる構想のこと。

ICT（P. 30）

コンピューターやインターネットに関連する情報通信技術のこと。

NPO 法人（P. 39）

営利を目的とせず、社会貢献活動を行っているボランティア団体や市民活動団体などの民間非営利組織のこと。

I・J ターン（P. 45）

Ｉターンは、生まれ育ったふるさとから他のまちに移住すること。Ｊターンは、生まれ育ったふるさとを離れて暮らしていた人が、ふるさとに近いまちに移住すること。

OJT（P. 33）

日常の仕事を通じて必要な知識、技術、技能、態度などを身に付けられるよう、意図的・計画的に指導すること。

Society5.0（P. 10）

最新のテクノロジーを駆使して、国がめざす未来社会の姿のこと。内閣府の第５期科学技術基本計画で「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」と定義されている。

U ターン（P. 44）

進学や就職などで、生まれ育ったふるさとを離れて暮らしていた人が、再びふるさとに戻ること。

7. 丹波市市民憲章

丹波市市民憲章

天から降る水のしずくを
北と南に分ける地、丹波市。
霧　湧き上がる大地の恵みを享けながら
「おかえり」を合言葉に　みんなが家族のように暮らします。

今日、ここで生きることに感謝して
明日、また幸せが訪れることを歓びながら
未来へ、はてなく続く希望に満たされるまち。

先人から受け継いだこのふるさとを、まだ見ぬ子孫に誇れるよう
私たち市民は、一人ひとりを互いに大切にしあい
よりよき時代を　つないでいきます。

（令和元年九月三十日制定）

本書への挿絵提供者（市内在住の小学生・中学生）

本市の未来のまちの風景やそこで暮らす人々のしあわせな表情が感じられるような絵画を市内在住の小学生・中学生から募集し、●●点の応募がありました。

・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○
・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○
・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○
・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○
・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○
・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○
・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○
・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○
・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○
・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○
・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○
・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○
・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○
・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○
・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○	・○○　○○

【編集・発行・お問い合わせ】

丹波市ふるさと創造部総合政策課

〒669-3692 兵庫県丹波市氷上町成松字甲賀1番地

Tel.0795-82-1001（代表）